

平成十八年度

和歌山県立中学校
(古佐田丘中学校)

受検番号

作文

(十一時十五分～十二時)

(注意)

- 一 「はじめ」の合図があるまで、開いてはいけません。
- 二 「はじめ」の合図があったら、まず、受検番号をこの冊子と原稿用紙げんこうしの二か所に記入しなさい。
- 三 作文は冊子の中にある原稿用紙に書きなさい。
- 四 印刷が悪くてわからない時や筆記用具を落とした時などは、だまって手をあげなさい。
- 五 時間内に書き終わっても、そのまま着席していなさい。
- 六 「ちめ」の合図があったら、すぐに書くのをちめ、二枚重ねて置きなさい。

一 次の文章を読んで、あとの問いにしたがって作文を書きなさい。

その日は、クリスマスにしては、昼間ぼかぼかと暖かい日でした。小学六年生のひろしと二つちがいの弟のさとは、家族でひらくクリスマスパーティーのプレゼントを買いに街に出かけました。プレゼントを買って家に帰ろうと思っていたところ、空が暗くなって、雪が舞うように降ってきました。

ふたりは、ある建物の軒のきに入っ、道に降る雪をながめていました。アスファルトに降る雪は、はじめのうち、ふわっと地面に舞い落ちると、すつととけて、そこにはただぬれたあとだけが残るのです。ふわっと降ってはすつと消えるのです。雪の舞い散る様子もやさしく、ふたりはそこに立ってながめていましたが、地面に降る雪の様子がいつそう不思議な感じがして、じっと見つめていました。

しばらくの間見続けていると、それまで地面に降っては消えていた雪が積もりはじめたのです。はじめはほんの少し、そして見る見るうちにあたり一面美しい雪におおわれました。

ふたりは、プレゼントをわきにかかえたまま、あまりの美しさに見とれていました。ふと、さるとるが、

「なぜ、なかなか雪が積もらなかったのかな。はじめに降ってとけてしまった雪は、何も残らないでさびしい気がするな。」

と、つぶやくように言いました。すると、ひろしが、

「そりゃあ、とけてしまった雪はさびしい気がするけれど、それがあつたから積もつたんだね。きれいだね。」

と、やさしく語りかけました。

しばらくして、積もる雪を見つめながら、ひろしが、

「自分たちにも、こういうふうにくりかえし続けていると、あるとき突然とつぜん、変化が現れることがあつたような気がするなあ。」

と、ひとりごとのように言いました。

やがてふたりは、雪を踏みしめながら家に帰っていきました。

【問い】右の文章を読んで、あなたが感じたり思ったりしたことや考えたことを、これまでの体験を入れて六〇〇字程度にまとめて書きなさい。